

# ゴムジョイント取扱い説明書

株式会社 **ハチケン**

〒334-0013 埼玉県川口市南鳩ヶ谷5-3-11

TEL (048)281-3615

FAX (048)281-7287

## 1. 用途

ジョイントは配管の変位の吸収・防音・防振を目的とした製品です。それ以外の目的にはご使用にならないで下さい。

## 2. 使用条件

ジョイントはご注文時に指定された、下記条件内でご使用下さい。

- 1) 流体の種類
- 2) 使用圧力
- 3) 使用温度
- 4) 許容変位量（縮み、伸び、偏心）
- 5) 用途（埋設または地上、吸込側または吐出側）

※ ジョイント全体を液体の中に漬けた状態ではご使用にならないで下さい。

※ フランジ規格の呼び圧力と実際に使用できる最高使用圧力とは必ずしも一致しておりません。図面やカタログで最高使用圧力をご確認下さい。

## 3. 入荷時の確認

入荷時に下記項目についてご確認下さい。

- 1) 運送中の損傷の有無
- 2) 製品の仕様
- 3) タイロッドなど付属品の員数

## 4. 保管

ジョイントを保管する際は下記事項についてご注意下さい。

- 1) 原則として屋内冷暗所に保管し、もし屋外で保管する場合は直射日光が当たらないようシート等を被せて下さい。
- 2) ジョイントの上に物を載せたり、ジョイントが変形した状態で保管しないで下さい。
- 3) パッキン部を損傷しないように、フランジが垂直になるような姿勢で保管して下さい。
- 4) 油や薬品など、ゴムに影響を及ぼすようなものが付着した状態で保管しないで下さい。

## 5. 運搬・取扱い

ジョイントの運搬、取扱いの際は下記事項にご注意下さい。

- 1) ジョイントの近くで溶接や火花の出る作業をしないで下さい。
- 2) 鋭利な角のある工具や、フォークリフトの爪等で突かないで下さい。
- 3) パッキン面は傷つけないよう、特に注意してお取り扱い下さい。
- 4) ワイヤーで吊る場合は、ジョイントを保護するために製品との間に毛布等のクッションをお使い下さい。

## 6. 取付け

- 1) ジョイントを変形させた状態で取付けると寿命が短くなります。配管がずれている場合は正しく修正してから取付けて下さい。  
※ やむを得ず変形させて取付ける場合は、図面やカタログに表示されている最大変位量の30%以内を目安に取付けて下さい。但し、その場合でも寿命が短くなる可能性があります。
- 2) ゴムジョイント同士又はライニング管との接続の場合は、フランジ面のシールが完全にできるように、相フランジを間に挟んで取付けて下さい。
- 3) パッキンを傷つける恐れがありますので、取付ける相手のフランジはなるべくFF（フラットフェース）フランジをお使い下さい。またフランジ面に溶接のバリなどの突起がない事をご確認下さい。  
※ やむを得ずRF（レーズドフェース）フランジの様な突起のあるフランジをお使いになる場合は、ジョイントシートなどの硬質のガスケットをお使い下さい。ガスケットは全面形（フランジ形）で、その内径はジョイント内径と同じにして下さい。
- 4) オプション「面間調整用セットボルト」  
ジョイントの長さを調整する際は短いボルトと高ナットを固定し、長い方のボルトを廻して長さを調整して下さい。ジョイント取付け後、セットボルトは必ず取外して下さい。
- 5) オプション「推力防止用タイロッド」
  - ① アダプタを均等に配置し、取付けボルト・ナットで固定して下さい。
  - ② アダプタ箇所の取付けボルトはそのプレートの厚さに合わせて長めのボルトが必要となります。
  - ③ タイロッド用長ネジのナットは許容伸縮量以内にセットして下さい。
- 6) フランジのボルト締めは、締め付けが均等になるよう対向する位置から交互に行なって下さい。

7) ボルトを締める際のトルクは、表-1 の値を目安として下さい。

表-1 ボルトの締付けトルク

ボルトサイズ	トルク (N・m)
M12	15
M16	30
M20	60
M22	80
M24	110
M30	220
M33	300
M36	400

8) ジョイントを取付けた後、ボルトがゴム部に接触していない事を確認して下さい。

9) 塗料の溶剤でゴムが侵されますので、ゴム表面に塗装をするのはおやめ下さい。

10) 屋外で使用する場合は日光から保護するため、ラッキングで覆うことをお奨めします。但し、メンテナンスのために簡単に外せるものをお使い下さい。

## 7. 定期点検

ゴムは時間とともに劣化しますので半年に1度、下記の項目を点検して下さい。

- 1) 外面ゴムに大きな亀裂がないか。
- 2) シール部または外面ゴム表面からの洩れがないか。
- 3) フランジが極端に錆びていないか。
- 4) ボルトがゴムに触れていないか。
- 5) 最大変位量以上に変位していないか。

最大変位量とはジョイント取付け後に徐々に変位できる最大の変位量です。

製品寿命が短くならないように、ジョイントが大きく変位している場合はできるだけ速やかに配管を正しく修正して下さい。但し、過剰に変位していた場合はゴムジョイントを交換して下さい。

- 6) その他の異常がないか。

取付け後10年以上経過した製品については、無条件で直ちに新品と交換されることをお勧めします。